
デキアイリリカル

巳都

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デキアイリリカル

【Nコード】

N8837Y

【作者名】

巳都

【あらすじ】

古く大きな財閥に生まれた少年は息子であり弟であり母であり神であり【原罪】であった。少年は今日もぬるい平穩の中から狂気を拾う。だって、退屈なんだもん

狂気ではじまるプロローグ（前書き）

短編の「デキアイリリカル」を連載にしてみました
短編のほつは連載のプロローグですね

狂気ではじまるプロローグ

少年は神だった

彼にとっての天使であった

彼らにとっての母であった

少年は笑う

つまらない世界の中に狂気を見つけて

今日は何をして遊ぼうか

君は僕を楽しませてくれる？

僕は狂気に飢えている

君が戸惑う姿が見てみたい

君が苦しむ姿が見てみたい

君が希望にすぎる姿が見てみたい

君が絶望する姿が見てみたい

僕に捧げよ 不滅の愛

僕に捧げよ 永久とわの忠誠

僕に捧げよ 止まらぬ狂気

さあ ゲームを始めよう

君は僕に勝てるかな？

ちゃんと本気で頑張っ
てね？

だって僕は

退屈なんだもん

愛し子の名(前書き)

うわぁ、投稿ってなんかすごいドキドキするー
受験生が何やってんだろ

愛し子の名

かみねしんり
神音真理は屋敷の長い廊下を進んでいた

丁度通りすがった男に声をかける

「私の天使はどこにいる」

「弟君ならば、まだ御部屋にて今朝届いたお菓子を召し上がっておられます」

「そうか」

真理は男の言葉を聞くと早速愛しい弟のいる部屋へと急いだ

【原罪の間】は弟のために作られた屋敷の別塔にある弟の自室である

その重厚な扉は漆黒に塗られ、ドアノブは金に輝いている

真理は扉を3回ノックし、ゆっくりと扉を開けた

床には沢山の箱、様々な色の包み紙やリボンが散らばっており部屋

の中はチョコレートの甘い香りに満たされていた

「おはよう、私の天使」

「みゆ？・・・あや、兄さま。おはよう」

「もう、昼だぞ」

真理が天使と呼びかけた少年は

白だった

白く少年の身長より長い髪は床に散らばったカラフルな包み紙やリボンと混じり合い

白銀の瞳は自らの兄にふわりと視線を上げた

「そつだっけ？まあいいや。今日のお昼ご飯はなに？」

「お前の好きなものしか出ないだろう」

「そーだよね」

「ほら、行くぞ」

真理は少年を片腕に座らせそのまま持ち上げるとゆっくりと部屋を出て歩き出した

「この屋敷にはお前の望むものしかないよ。私の天使

イヴ」

愛し子の名(後書き)

相変わらず駄文さあせん(ー・ー・ー)

強欲の少年（前書き）

長かった地獄の冬期講習が終わって新学期に入ってやっと落ち着きました

2話からだいぶ遅れてしまいました スミマセン！

まあ、友達くらいしか読んでないと思いますけど

その友達に「早く続きを！」とせっつかれたので、結構慌てて書きました

強欲の少年

「ちかづくなよ、ばけもの！」

「おまえ、きもちわるいんだよ！」

さつきから自分を罵っている目の前の子供たちは誰だったか
顔もはつきりと思いいせせない

しかし、彼 むねつみ無音罪忌せきにとってそれはどうでもいいことだ
った

ここで重要なのは、彼らが罪忌になんの利益ももたらさないことだ
った

「おれ、しつてんだぞ！おまえがちかちゃんのおとーさんをく、ク
ビにしたんだ！」

「おかーさんがいつてたぞ、おまえはこどものくせにはけものみた
いだって！」

そろそろ子供たちの自分でも良く分かっているであろう罵倒に飽
きてきたのか

罪忌はブランコに座り、俯いていた顔を上げた

「なつ、なんだよ！」

「五月蠅いんですよ、さつきから。黙っていればどうでもいい話を
べらべらと。」

僕が貴方たちの言う「ちかちゃん」の父親を解雇したのは彼がど
うしようもなく無能で

ありながら裏でこそこそと小賢しいマネをしたからです。

貴方たちとはなんの関係もありません。それとも、貴方たちは僕

になにか利益でも

もたらしてくれるのですか？」

「む、むずかしいことといって、ひきょうだぞ！」

「……愚かな」

罪忌は目の前の子供たちのレベルの低さに改めて絶望するとズボンのポケットから

ケータイを取り出し、近くに待機させていた車を呼びつけた

「ご苦労様です」

騒ぐ子供たちを無視して到着した高級車に乗り込むと、罪忌は専属運転手に指示を出した

「神音邸へ向かってください」

子供たちの相手で存外疲れていた罪忌はこれから会えるであろうひとりの少年を想い

その口元に子供らしい微笑を浮かべていた

強欲の少年（後書き）

これだけ読むと「ワケわからん」ですよ
ねでも大丈夫！

後々うまくまとまる・・・はず！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8837y/>

デキアイリリカル

2012年1月15日00時48分発行